

---

令和6年度 第1回午後（2科目）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和6年2月1日 施行

---

注意事項

1. 試験開始の合図<sup>あいず</sup>があるまで、この冊子<sup>きつし</sup>の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生<sup>あ</sup>どうしの貸し借り<sup>か</sup>もできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子<sup>もんたいさふ</sup>の印刷<sup>いんさつ</sup>が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は18ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の——線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① その問題は、もはや科学のリョウイキを超えている。
- ② カタツムリのツノをつついてみる。
- ③ この失敗をいいキョウケンにしなさい。
- ④ ケワしい山道がつづく。
- ⑤ 希望していた企業きぎょうからサイヨウ通知が届いた。
- ⑥ サッカー選手になりたいという兄のイシはかたい。
- ⑦ この冬初めてのセキセツがあった。
- ⑧ 著名な作家の講演会に参加する。
- ⑨ 海外旅行をして見聞を広める。
- ⑩ 提出する作品の構想を練る。

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ヒトの立場から勝手に考えると、ハチやアリの社会形態の見方は2通りあると思います。一つはストレートに（注1）シニア（女王）が「支配する」君主制の社会。女王のためにその他の個体が家来のように働いて尽くすという見方です。もう一つは、全員で女王を「支えて」繁栄する家族制分業社会。こちらは、女王が産卵という重労働を一人で引き受けて、周りはそれを応援するという見方です。

どちらもヒト目線の捉え方で、実際にはそのような①思惑もストーリー性もなく、進化の結果、たまたまこの形のもので生き残っただけです。ただ、分業は集団としての効率を上げるので、その意味では②後者の見方が正解に近いのかもしれませんが。 「あ」

実際にミツバチの社会構造の進化の過程を見てきたわけではないので、③真実かどうかは確かめようがないのですが、こういう説明も可能という程度で、私の推察をお話しします。

ミツバチの祖先が生きていた環境では、集団が大きいほうがより丈夫で安全な巣を作れ、また食料集めにも有利だったのかもしれませんが。そのため、子孫の数を効率良く増やす仕組みを持つグループが生き残れる確率が高かったと推察されます。その場合、個々のメスがそれぞれ卵を産むより、産むことを専門とする個体（女王）を作り、それをみんなで保護し、餌を与え、支えたほうが、生産性が良かったのかもしれませんが。

《①》 ≧ ミツバチの有名な行動に「④尻振りの8の字ダンス」というものがあります。これは蜜のある花畑を見つけた個体が巣に戻り、その場所を他の個体にお尻を振って音を出して教えます。お尻を振っている時間の長さが、花畑までの距離（1秒が約700メートル）、お尻を振って移動する方向が、太陽との角度を示します。それを見た個体は、その場所を目指して飛び立つわけです。このような高度な情報収集の技を獲得できたのも、分業のおかげでしょう。

社会性の昆虫では、構成個体は女王の子供、あるいは姉妹です。言ってみれば集団として一つの生命体のようなもので、女王はその生殖器官の役割を担っているのです。もしかしたら、ヒトも遠からぬ未来、同じような分業体制、② ≪産むヒトと産まないヒトの二極化が起こるかもかもしれません。「い」

すでにその傾向は始まっていると思います。産むヒトを社会全体で支える仕組みがきちんとできれば、もしかしたら少子化対策の一つになるのではないかと私は思っています。いずれにせよ、子供を産みたいと思った人が、安心して産める社会を作ることが何よりも大切ですね。

ではヒトについて改めて考えます。生物学者としては、ヒトの社会も、生物の生きざまの一つの形に見えています。根っこは同じで、進化の（注②）賜物として生き残った存在であること、それぞれの生物の違いは、いかにその生活環境に適応し、自身が変化したかです。ヒトの特殊性は「環境Ⅱ社会」によって決まるのです。「う」

ヒトの寿命が延びた原因は、シニアの共同体における活躍にあります。本書では「シニア」を年齢と切り離した「共同体での地位（役割）」で定義していますが、実際のシニアは「老い」が始まっているヒトが大多数です。それでは、この「老いすること」は、「シニアになること」と何かしらの関係があるのでしょうか。前章の最後でも少し触れましたが、結論から言うと、⑤ 非常に関係があると私は思います。

若いときにはとにかくなんでも挑戦したいので、活発に行動します。恋愛だったり仕事だったり、自身の鍛錬だったり。若い時代のライフスタイルは言ってみれば「A」的で競争的ですね。元気な肉体をフル稼働させ、人と競争し、目的を達成すべく努力します。人と喧嘩になることも、時には失敗して大きく傷つくこともあるでしょう。

やがて結婚して子供ができる人もいて、少しずつ経験を積んで、だんだんと職場で指導的な立場になってきます。そして少しだけ老いを感じ始めたときに、ある変化が起こります。それは、いつまでも競ってばかりはいられないと思うようになるのです。③ ≪個人差はありますが、少しずつ「A」的・競争的「なライフスタイルから、「共存的・B」

的」なものに変化していきます。自分のことを中心に考えていた若いときに比べて、ものの見方も広くなっています。周りに自分より年下の人が増えてきて、自分がかつて通ってきた年代の人のことがよくわかるのです。

そしてさらに年齢を重ね、子供が独立したり、親が亡くなったり、自身の死を意識する頃には、すでに多くのことを経験しており、世の中がかなり⑥客観的に見られるようになります。他人のことでも「こうすればいいのに」とか、自身の過去についても「こうしとけばよかった」とか、世の中のことが時空間的にさらに広がりを持って観察できるようになります。いろいろなことに口を出したくなり、いい意味でお節介せっかいにもなっていくのです。ライフスタイルからすると「共存的・【B】」から「公共的・【C】」的」になったと言うことができます。

ここまで来れば、立派なシニアです。自分が世の中のために何をすべきかわかってきます。これは、子供がいてもいなくても同じです。会社、組織、知人との関係性においても、同じように変化していきます。「え」

このシニアまでの変化の過程、つまり「競走↓共存↓公共」を後押しあとおするのは、自身の経験の積み重ねに加えて、肉体の「老化」なのだと思います。肉体にエネルギーがみなぎっているときには気がつかなかったことが、老いによりだんだん見えるようになってくるのです。たとえて言うなら、ランナーとして前だけを見て全力で走っていたときには見えなかった周りの風景や他のランナーが、速度が弱まることで見えるようになるようなものです。

私たち人類が進化の過程で得た老後の長い余生は、実は自分がのんびり過ごすためだけにあるものではなく、元々は世の中をうまくまとめるお役目もありました。自分の欲望をやり尽くしたと感じたとき、プレーヤーからコーチや監督かんどうくに役割が変わるのです。チーム「人類」として、幸福という名の勝利に向かって歩む司令塔とうたの一人になるのです。そして老化は、社会の中でも役割の変化を示すサインと捉えることもできるのです。

とはいえ通常は、「老後」はのんびり旅行でもしながら過ごそうと思うのが普通ふつうです。もちろん大賛成です。その旅行のエネルギーのほんの数パーセントを後進のため、公共のために使ってはどうかと思うのです。

歳を重ねながら、その公共のために使う割合を少しづつ増やしていけばそれだと思います。そして最後は、100%公共のために尽くす——つまり、天寿を全うして亡くなるのです。最初にお話したように、死があったからこそ生物は進化し、私たちは存在してこられたのですから。⑦ かわいいう後輩たちのための最後の「奉公と思えば、老いることも死ぬことも、少しは楽に感じられるようになるかもしれません。

(小林武彦『なぜヒトだけが老いるのか』より)

(注1) シニア：年長者・上級者。

(注2) 賜物：成果。

問1 —— 線部①「思惑」の文中での意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 疑問    イ 要求    ウ 結論    エ 意図    オ 批判

問2 —— 線部②「後者の見方」とは、具体的にどのような「見方」ですか。三十五字以上四十字以内で本文中の表現をぬき出し、その最初と最後の五文字を答えなさい。ただし、句読点も字数にふくめるものとします。

問3 —— 線部③「真実」を、文章の内容が変わらないように別の語句に言いかえたものとして、最も適切なものを次から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 正義    イ 正解    ウ 常識    エ 理想    オ 有効

問4 本文中の空らん《(1)》《(2)》《(3)》に当てはまる語句として適切なものをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ もちろん ウ そのため エ たとえば オ あたかも カ つまり

問5 ——線部④「尻振り8の字ダンス」の具体例を通して筆者はどのようなことを述べていますか。次からその説明として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 君主である女王バチに尽くして働く家来のハチたちが、尻振り8の字ダンスなどの高度な情報収集技術を身につけることで、生産性の良い社会を作り上げることができた、ということ。

イ 分業制にただけでは尻振り8の字ダンスのような高度な情報収集技術を獲得することは不可能なので、ハチは何らかの特殊な能力を持っていると考えられる、ということ。

ウ 尻振り8の字ダンスのような高度な情報収集の技を身につけられるのは、一部のハチに限られるため、なるべく集団を大きくするための分業制が必要だった、ということ。

エ ハチの社会が分業制をとることによって、尻振り8の字ダンスのような高度な情報収集の技を獲得し、子孫の数を効率よく増やす仕組みを持つ集団になることができた、ということ。

問6 ——線部⑤「非常に関係があると私は思います」とありますが、「老いること」と「シニアになること」との関係について筆者が指摘している内容と**合わないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年老いて肉体が衰えることで、肉体をフル稼働させていた若いころには気づかなかったことにも気づくことができるようになる、ということ。

イ 子供の独立や親の死など、多くのことを経験した高齢になると、広い視野で世の中を見ることができるようになり、世の中における自分の役割が分かるようになる、ということ。

ウ 年齢を重ねて老いを感じ始めることで、若いころは自分中心だったものの見方が広がり、周囲の年下の人たちの気持ち分かるようになる、ということ。

エ 年齢を重ねるなかで経験したことを生かして新たなチャレンジをすることで、周囲の若い人から信頼されたり尊敬されたりするようになる、ということ。

問7 本文中の空らん【A】と【C】に当てはまる語句として適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 直接    イ 挑戦    ウ 間接    エ 義務    オ 奉仕    カ 協調    キ 楽観

問8 ——線部⑥「客観的に」の文中での意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一つのポイントにしぼり集中して    イ 表面的なものだけでなく奥深くまで

ウ 特定の立場にとらわれず広い視野で    エ 過去や未来のこともふくめて総合的に

オ 細かい部分にとらわれず全体的に



問9 ——線部⑦「かわいい後輩こうはいたちのための最後のご奉公ほうこう」とありますが、これは、「だれが」「何を」「どうする」「こと」ですか。二十字以上三十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数にふくめるものとします。

問10 本文からは以下の一文がぬけ落ちています。本文中の「あ」「え」のどこに入れるのが適切ですか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

そのため、ヒトを生物学的に捉とらえる場合は、社会との関係かんけいを抜きぬきにしては不可能なのです。

問11 本文の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ミツバチは進化の過程で、小さな集団をたくさん作って、その中で効率よく子孫を増やす仕組みを作り上げた。
- イ ミツバチも人間も、自らの生活を維持いじし、社会の中で平和に暮らすために、女王やリーダーを必要とした。
- ウ 人間社会でも、ハチと同様に産む・産まないの二極化が始まっており、産むヒトを社会全体で支えなくてはいけない。
- エ ハチもヒトも生き残るためには生活環境かんきやうに適応することが大切なので、シニアは社会をまとめるべきである。

三 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

翌朝、いつもより早く猫を病院に預けて出勤した私は、会社のそばのカフェで親しいイラストレーターとコーヒーを飲みながら次号の特集についての打ち合わせをした。犬や猫の絵を、リアルに愛おしく描いてもらいたかった。

彼女と別れてからスマホを取り出そうとして、ぎよっとなった。バッグの中を底までかき回しても、無い。考えてみればカフェにいた間、一度もスマホを見ていない。会社のデスクの上に置き忘れて出てきてしまったのだ。

① 血の気が引くとまで言うとは大げさだけれど、絶望的な気分にはなった。あの小さな物体が手の中になんかというだけで、羽をもがれたかのようにだ。緊急の案件が入っていないといけれど、と思いながら腕時計を見ると、榊原氏との約束の場所に向かわなくてはならない時間だった。デスクまで取りに戻っている時間はない。

仕方なく、地下鉄の駅へと階段を下り、待ち合わせをしているホテルへと向かった。

佐藤編集長は遅れずに来てくれるだろうか。打ち合わせの内容よりも、こちらのほうが気にかかってたまらない。何しろ、スマホがなくてはその場で連絡する手段もないのだ。彼の遅刻癖をどうのこうの言う前に、私自身のこの不注意を大いに反省しなくてはならない。

地下鉄を降り、地上に出て道路を渡る。なだらかな坂になった車回しの向こう、重厚なガラスドアのそばで待ち構えているドアボーイが、白い手袋をはめた手で私のためにうやうやしく開けてくれた。

分厚い絨毯に靴のヒールがめりこむのを感じながら、再び腕時計をのぞく。大丈夫、いつもの通り、約束の時間のきっかり二十分前だ。三人が座れる席は空いているだろうかとラウンジを見渡す。

③ 目を疑った。混み合う広いラウンジの奥、モザイクの壁画を背にしたテーブルに、榊原氏と佐藤編集長が向かい合っていたのだ。

ほっとする半面、こちらが遅刻したわけでもないのに気まずい、と思いながら急ぎ足でそばへ向かうと、私に気づいた編

編集長が、何とも言えない顔で口をぱくぱくさせながら腰を浮かせた。今日も、髪の毛がひと束ぴよこんとはねている。

「お待たせしてすみません」

二十分前だけれど一応謝りながら見ると、榊原氏の様子がおかしかった。控えめに言つて、激怒していた。

「あの……？」

もしや佐藤編集長が何か機嫌を損ねるような失言をしたのだろうか、と思いかけた時、氏が、まだ立ったままの私をじろりと睨み上げて言つた。

A 「連絡の一本くらい、入れたらどうなのかね」

B 「は？」

C 「ほんつとうに申し訳ございません！」

佐藤編集長が深々と頭を下げ、悲愴な感じの目を私に向けて言つた。

「何があつたの。さつきから何回も携帯に電話してたんだよ」

「え……ちよつと待つて下さい、あの、お約束は十三時半じゃ」

「十二時半。北川さん、僕にもそう言つたよ。ほら、先週、先生から編集部にお電話頂いたあと。手帳にだつて、ちゃんとその場で書きこんでたじゃない」

④ 今度こそ、はつきりと、頭から血の気が引いていくのがわかつた。

「ご……ごめんなさい、私、どうしてそんな勘違いを……」

声が震える。膝もだ。

でも、そんなはずはない。スケジュール表なら何度も確かめている。昨日も見たし、今朝も見た。

ラウンジのスタッフがオーダーを取りに来たけれどもそれどころではなくて、私はバッグをソファに置き、革の手帳を取り出して広げた。十日のスケジュールを震える指で追う。午前中にイラストの打ち合わせ、そのあと。

榊原先生、13…30。

ほら、と言いかけて、⑤はっとなつた。自分の字だけれど、どう見ても「3」に読めるこれは……。喉が、からからに干上がる。

「五分や十分遅刻してくる人間はいくらでもいたけどね」

もはやこちらを見もせずに、榊原氏は言った。

「僕をここまで待たせたのは、きみが初めてだな」

失敗なら、若い頃からさんざんしてきた。今だったら考えられないくらい馬鹿な言動も山ほどあるし、ついうっかり忘れたり勘違いしたりといったことはそれ以上にある。私は、じつを言うと、もともととはひどく（注1）粗忽な人間なのだ。

だからこそ毎朝、持ちものを確かめ、玄関の施錠を指さし確認し、スケジュール表には自分の手と自分の字で予定を書き込むようにしているのだ。ボタンを操作してスマホに打ち込むより、そのほうがまだ忘れないで済むから、と。

けれど――

「何度も確かめたのに、自分の書いた字を読み間違えるなんてね」

夜遅く、夫と向かい合うと、私はこらえきれずに溜め息をついた。彼は帰宅したときから私の様子に何かを感じていたらしく、夕食後は黙って離れへ来て話を聞いてくれた。⑥お互いの間には今、ふだんなら特別な日にだけ開けるワインのボトルが置かれている。彼が抱えてきたものだった。

猫とはいえば、今も壁際の箱の中で寝ている。あんな衝撃的なボカの後でも、夕方、病院にだけは忘れずに立ち寄った自分を褒めてやりたい。

この一週間ほどで、駅からまず我が家とは逆の方角へ歩き出すのが習慣になりつつある。毎日の点滴もむなしく、血液検査の数値は少しずつ悪くなっていたものの、痛み止めのおかげで苦しくはなさそうなのが何よりだった。

「確かにね、榊原先生からの電話を受けた時、十二時半ですわって復唱した気はするんだ。お昼過ぎか、混んでるな、なんて思ってた。それなのに、後から手帳を見たらそっちの数字を信じちゃって……」

「まあ、そんなに落ち込む必要はないんじゃない？」と、夫は言った。「失敗は失敗だけど、何もずぼらで時間に遅れたわけじゃないんだからさ」

「そうだけど、それがよけいにショックだね。ずぼらだったら次から注意のしようもあるけど、ここまで確信を持って失敗したのは初めてだったから……。ちよつと、まいった」

「それで、その先生はどうしたの。怒って帰っちゃったとか？」

私は首を横に振った。

実際のところ榊原氏には、かなり長い間ご機嫌を直して頂けなかった。その末に、遅れた理由を話してみなさい、きみには説明する義務がある。と言われたので、何を申し上げても言い訳になりますがとことわった上で事情を説明すると、氏は私の手帳を覗き込み、私が読み間違えた（注②）くだんの数字を見て、ふん、と【1】を鳴らした。

そうして、ようやくこちらを見て宣った。

「きみがそうだと言うなら信じよう、という気になるのは、これまでのきみのふるまいを見てきたからだろうな」  
ぐつと喉が詰まって、変な声がもれそうになった。

ありがとうございます、本当に、ほんとうに申し訳ございませんでした。深くふかく頭を下げる私に、氏は続けて言った。  
「とはいえ、二度目はないよ。きみ、ここを出たらすぐどこか専門店に寄って、まずはその⑦眼鏡を何とかしなさい」  
ひととおりに聞いた夫は、くすりと笑った。

「いい先生じゃない」

「そうなの。うん、ほんとにね」

会って見たらじつはすごく【2】の低い人だったとか、そんなようなことは、あつたりはしない。けれど、一本きちんと

筋の通った人であるのは確かだった。榊原氏にあれだけ厳しく叱しかつてもらえなかったら、私は今もまだぐずぐずしていたに違いない。

「で？ 眼鏡は作り直したの？」

再び、首を横に振ってみせる。

「なんで。言われたんだろ？ すぐ何とかしろって」

「うん。だからね」

私は、自分の目を指さしてみせた。

げげんそうに眉根まゆねを寄せた夫が、

「え、うそ！」

思わずといったふうふうに声をあげる。

「だつてきみ、あんなに……」

驚おどろくのも無理はない。これまでずっと、何であれ異物を目の中に入れるということがどうしても怖こわくて受け容いれられなかった。

でも、榊原氏との打ち合わせのあと佐藤編集長にことわって時間をもらい、近くで専門の眼科を探して検査とフィッティングをしてみたら、何ということとはなかったのだ。慣れるまでは少しふわふわして酔よったような感じがしたけれど、それ以外はほんとうにまったく、何ということとはなかった。

「それ、今も入ってるのか？」

「もちろん入ってますよ」

夫は、へーえ、と何とも言えない声をもたらした。まんざらでもない様子で私をまじまじと見る。

「で、感想はどうよ？」

言いながら身を乗り出してきて、私の目の中を覗き込む。

夫の顔がくつきりと見えすぎて、今さらのようにどぎまぎする。おまけに、お互いの間に眼鏡のレンズという遮蔽物しゃへいぶつがないせいか、ひどく無防備なのだ。あれが私にとってたのかもしれない。

「なああってば、どんな感じ？」

重ねて訊かれ、

「そうだなあ……」

私は言葉を探した。

「強しいて言うなら、世界を取り戻した感じ、かな」



のようなものだったとしたら、やはり捨て去って正解だっ

(村山由佳『ある愛の寓話』より)

(注1) 粗忽そこつな…そそっかしい。

(注2) くだんの…例の。

問1 ——線部①「血の気が引くとまで言うときと大げさだけれど、絶望的な気分にはなった」、——線部④「今度こそ、はつきりと、頭から血の気が引いていくのがわかった」とあり、この二つの場面では両方に「血の気が引く」という表現が使われています。このことについて以下の各問いに答えなさい。

(1) 「血の気が引く」ということばは、ふつうどのような感情を表現するときに使いますか。その説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分がやるべき仕事に出会ったときの心の高ぶり。

イ 物事をあきらめざるをえなくなったときの残念な気持ち。

ウ 失敗を他人に知られたときのひどくはずかしい気持ち。

エ 予想外の事態に出くわしたときの心の動揺や恐怖。

(2) ——線部①・④それぞれの場面における「私」の心情を比較して説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ①の場面では、自分の失敗がスマホを忘れたことだけではいかもしれないという予感から不安を感じていた。し

かし④の場面では、予感が現実となり、驚きとともに心の底から動揺している。

イ ①の場面では、スマホを会社のデスクに置き忘れたため「絶望的な気分」になっている。しかし④の場面では、つまらないミスで編集長にしかられて、心からはずかしい気持ちになっている。

ウ ①の場面では、スマホを会社のデスクに置き忘れたことにショックを受けてはいるが、実はそれよりもっと心配なことがある。しかし④の場面では、自分の失敗の深刻さに心から打ちのめされている。

エ ①の場面では、会社のデスクにスマホを置き忘れてきたことを「絶望的な気分」と言っているが、実はそれほど困ってはいない。しかし④の場面では、大きなミスをしたことの残念さで気がめいつている。



問2 ——線部②「羽をもがれたかのようだ」とありますが、これは「私」のどのような心情を表していますか。次から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 着信を確認できず仕事に影響が出てしまうことにいら立っている。

イ 連絡手段をなくしたことにひどく落ちこみ、不安になっている。

ウ 自分の準備不足にいやげがさし、仕事に対して無気力になっている。

エ スマホをどこに忘れたか分からないため、恐怖を感じている。

問3 ——線部③「目を疑った」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア ふだんは遅刻しがちな佐藤編集長が、すでに榎原氏と向かい合ってすわっているのを目にして、今日に限って約束の二十分も前に来ていることに驚いたから。

イ ラウンジは混んでいるので三人がすわれる席があるかどうか心配だったが、佐藤編集長が榎原氏との打ち合わせのため、の席を確保していたことに驚いたから。

ウ 佐藤編集長と榎原氏とがラウンジの奥の方の席で向かい合ってすわっているのを見て、自分が遅刻してしまったのではないかと思いついたから。

エ 自分には先方に迷惑をかけるような大きなミスをした覚えはないのに、榎原氏があきらかに激怒した表情をしているのを見て焦ったから。

問4 ——線部A「連絡の一本くらい、入れたらどうなのかね」、——線部B「は?」、——線部C「ほんつとうに申し訳  
ございません!」の三つの会話文は、それぞれだれの言葉ですか。次から正しい組み合わせを一つ選び、記号で答えな  
さい。

ア A…榎原氏 B…私 C…佐藤編集長

イ A…榎原氏 B…佐藤編集長 C…私

ウ A…佐藤編集長 B…私 C…佐藤編集長

エ A…佐藤編集長 B…榎原氏 C…私

問5 ——線部⑤「はつとなつた」とありますが、「私」はどのようなことに気づいたため「はつとなつた」のですか。「約  
束」「勘違い」の二語を必ず用いて、三十文字以上四十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数にふくめるものと  
します。

問6 本文中から読み取れる榎原氏の人物像として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 感情にまかせて怒るのではなく、認めるべきところは認め、筋の通つた怒り方をする人物。

イ 自分にも他人にも厳しいため、人の失敗を決して許すことのできない人物。

ウ 好き嫌いが激しく、気に入った相手の失敗なら許してしまう甘さを持つ人物。

エ 一時的に感情が爆発してもすぐ冷静になり、他者の意見を受け入れる柔軟性を持つ人物。

問7 ——線部⑥「お互いたがの間には今、ふだんなら特別な日にだけ開けるワインのボトルが置かれている」とありますが、「夫」はなぜ、ふだんとはちがう特別なことをしたのですか。その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ミスはしたものの、大きな仕事をやり終えた妻の成果を祝おうと思ったから。

イ 妻の失態を聞き、落ちこんでいる妻をなぐさめようとしたから。

ウ 仕事で失敗しても、猫ねこのことを忘れずにいた妻に感心したから。

エ 猫の検査結果に落ちこんでいる妻を、落ち着かせようと思ったから。

問8 本文中の空らん【1】・【2】に当てはまる漢字を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 腰こし イ 足 ウ 口 エ 尻しり オ 鼻

問9 ——線部⑦「眼鏡を何とかしなさい」とありますが、このように言われた「私」は具体的にどのような行動をとりましたか。二十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も字数にふくめるものとします。

問10 本文中の空らん ★ に当てはまる語句として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア よく効く薬 イ 鋭利えいりな刀 ウ 輝かがやく指輪 エ 透明とうめいな鎧よろい

国語  
解答用紙

教室番号

座席番号

受験番号

氏名

一

⑨	⑤	①
る	⑥	②
	⑦	③
⑧	④	しい

(注意) ※のらんには何も書かないこと

二

問1	問3	問6
問2	問4	問7
問5	問5	問8
問6	問6	問9
問7	問7	問10
問8	問8	問11
問9	問9	問1
問10	問10	問2
問11	問11	問3
問12	問12	問4
問13	問13	問5
問14	問14	問6
問15	問15	問7
問16	問16	問8
問17	問17	問9
問18	問18	問10
問19	問19	問11
問20	問20	問12
問21	問21	問13
問22	問22	問14
問23	問23	問15
問24	問24	問16
問25	問25	問17
問26	問26	問18
問27	問27	問19
問28	問28	問20
問29	問29	問21
問30	問30	問22
問31	問31	問23
問32	問32	問24
問33	問33	問25
問34	問34	問26
問35	問35	問27
問36	問36	問28
問37	問37	問29
問38	問38	問30
問39	問39	問31
問40	問40	問32
問41	問41	問33
問42	問42	問34
問43	問43	問35
問44	問44	問36
問45	問45	問37
問46	問46	問38
問47	問47	問39
問48	問48	問40
問49	問49	問41
問50	問50	問42
問51	問51	問43
問52	問52	問44
問53	問53	問45
問54	問54	問46
問55	問55	問47
問56	問56	問48
問57	問57	問49
問58	問58	問50
問59	問59	問51
問60	問60	問52
問61	問61	問53
問62	問62	問54
問63	問63	問55
問64	問64	問56
問65	問65	問57
問66	問66	問58
問67	問67	問59
問68	問68	問60
問69	問69	問61
問70	問70	問62
問71	問71	問63
問72	問72	問64
問73	問73	問65
問74	問74	問66
問75	問75	問67
問76	問76	問68
問77	問77	問69
問78	問78	問70
問79	問79	問71
問80	問80	問72
問81	問81	問73
問82	問82	問74
問83	問83	問75
問84	問84	問76
問85	問85	問77
問86	問86	問78
問87	問87	問79
問88	問88	問80
問89	問89	問81
問90	問90	問82
問91	問91	問83
問92	問92	問84
問93	問93	問85
問94	問94	問86
問95	問95	問87
問96	問96	問88
問97	問97	問89
問98	問98	問90
問99	問99	問91
問100	問100	問92

三

問1	問2	問3	問4
問5	問6	問7	問8
問9	問10	問11	問12
問13	問14	問15	問16
問17	問18	問19	問20
問21	問22	問23	問24
問25	問26	問27	問28
問29	問30	問31	問32
問33	問34	問35	問36
問37	問38	問39	問40
問41	問42	問43	問44
問45	問46	問47	問48
問49	問50	問51	問52
問53	問54	問55	問56
問57	問58	問59	問60
問61	問62	問63	問64
問65	問66	問67	問68
問69	問70	問71	問72
問73	問74	問75	問76
問77	問78	問79	問80
問81	問82	問83	問84
問85	問86	問87	問88
問89	問90	問91	問92
問93	問94	問95	問96
問97	問98	問99	問100

問10	問9	問6	問7	問8
問11	問10	問9	問8	問7
問12	問11	問10	問9	問8
問13	問12	問11	問10	問9
問14	問13	問12	問11	問10
問15	問14	問13	問12	問11
問16	問15	問14	問13	問12
問17	問16	問15	問14	問13
問18	問17	問16	問15	問14
問19	問18	問17	問16	問15
問20	問19	問18	問17	問16
問21	問20	問19	問18	問17
問22	問21	問20	問19	問18
問23	問22	問21	問20	問19
問24	問23	問22	問21	問20
問25	問24	問23	問22	問21
問26	問25	問24	問23	問22
問27	問26	問25	問24	問23
問28	問27	問26	問25	問24
問29	問28	問27	問26	問25
問30	問29	問28	問27	問26
問31	問30	問29	問28	問27
問32	問31	問30	問29	問28
問33	問32	問31	問30	問29
問34	問33	問32	問31	問30
問35	問34	問33	問32	問31
問36	問35	問34	問33	問32
問37	問36	問35	問34	問33
問38	問37	問36	問35	問34
問39	問38	問37	問36	問35
問40	問39	問38	問37	問36
問41	問40	問39	問38	問37
問42	問41	問40	問39	問38
問43	問42	問41	問40	問39
問44	問43	問42	問41	問40
問45	問44	問43	問42	問41
問46	問45	問44	問43	問42
問47	問46	問45	問44	問43
問48	問47	問46	問45	問44
問49	問48	問47	問46	問45
問50	問49	問48	問47	問46
問51	問50	問49	問48	問47
問52	問51	問50	問49	問48
問53	問52	問51	問50	問49
問54	問53	問52	問51	問50
問55	問54	問53	問52	問51
問56	問55	問54	問53	問52
問57	問56	問55	問54	問53
問58	問57	問56	問55	問54
問59	問58	問57	問56	問55
問60	問59	問58	問57	問56
問61	問60	問59	問58	問57
問62	問61	問60	問59	問58
問63	問62	問61	問60	問59
問64	問63	問62	問61	問60
問65	問64	問63	問62	問61
問66	問65	問64	問63	問62
問67	問66	問65	問64	問63
問68	問67	問66	問65	問64
問69	問68	問67	問66	問65
問70	問69	問68	問67	問66
問71	問70	問69	問68	問67
問72	問71	問70	問69	問68
問73	問72	問71	問70	問69
問74	問73	問72	問71	問70
問75	問74	問73	問72	問71
問76	問75	問74	問73	問72
問77	問76	問75	問74	問73
問78	問77	問76	問75	問74
問79	問78	問77	問76	問75
問80	問79	問78	問77	問76
問81	問80	問79	問78	問77
問82	問81	問80	問79	問78
問83	問82	問81	問80	問79
問84	問83	問82	問81	問80
問85	問84	問83	問82	問81
問86	問85	問84	問83	問82
問87	問86	問85	問84	問83
問88	問87	問86	問85	問84
問89	問88	問87	問86	問85
問90	問89	問88	問87	問86
問91	問90	問89	問88	問87
問92	問91	問90	問89	問88
問93	問92	問91	問90	問89
問94	問93	問92	問91	問90
問95	問94	問93	問92	問91
問96	問95	問94	問93	問92
問97	問96	問95	問94	問93
問98	問97	問96	問95	問94
問99	問98	問97	問96	問95
問100	問99	問98	問97	問96

※

※

※

※

※

※

※